

公立小・中学校及び幼稚園の耐震化の状況・施設別一覧

施設名	棟用途	棟		建築年月	構造	階数	面積 (㎡)	区分	優先度調査		第1次診断			第2次診断			第3次診断			改修		改修後			
		番号	枝番						年度	ランク	年度	Is値	年度	Is値	CT・SD値	年度	Is値	CT・SD値	年度	Is値	CT・SD値	年度	Is値	CT・SD値	
																									年度
菅谷小学校	普通教室棟	1		昭和47年2月	RC	3	2,929	旧基準			7	0.23	7	0.26	0.30	8	0.15	0.21	8	0.80	0.42				
	管理棟	5		昭和56年3月	RC	2	808	旧基準					18	1.48	0.55								補強の必要なし		
	屋内運動場	9		昭和53年1月	S	2	1,100	旧基準	17	5			23	0.11	0.33								24	0.94	1.71
	渡り廊下(東側)	10		昭和47年2月	RC	2	126	旧基準			7	0.40	7	0.26	0.29	8	0.18	0.20	8	0.78	0.35				
	渡り廊下(西側)	11		昭和56年3月	RC	3	168	旧基準					18	1.31	0.63										補強の必要なし
	特別教室棟	12		昭和56年3月	RC	3	1,703	旧基準					18	0.94	0.44										補強の必要なし
七郷小学校	普通・特別教室棟	2	1	昭和49年3月	RC	3	1,000	旧基準								9	0.37	0.15	10	0.76	0.31				
	普通・特別教室棟	2	2	昭和49年5月	RC	3	1,799	旧基準																	
	屋内運動場	11		平成24年3月	S	1	664	新基準	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
志賀小学校	普通教室・管理室棟	1	1	昭和54年3月	RC	3	1,853	旧基準								14	0.73	0.32	15	0.84	0.31				
	普通・特別教室棟	1	2	昭和54年3月	RC	3	1,999	旧基準								14	0.48	0.22	15	0.82	0.31				
	屋内運動場	9		昭和55年11月	S	2	1,121	旧基準	17	5			23	0.21	0.19								24	0.85	
菅谷中学校	普通教室棟	3	1	昭和50年3月	RC	4	2,021	旧基準								11	0.24	0.17	12	0.77	0.34				
	普通教室棟	3	2	昭和50年5月	RC	4	1,660	旧基準																	
	屋内運動場	11		平成24年3月	RC	2	1,340	新基準	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	管理棟	6		昭和61年3月	RC	2	854	新基準	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
玉ノ岡中学校	普通・特別教室棟、管理室棟	1		昭和59年3月	RC	3	4,022	新基準	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	屋内運動場	4		昭和59年12月	RC	2	1,267	新基準	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	武道場	8		平成6年3月	S	1	492	新基準	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
嵐山幼稚園	普通教室棟	2		昭和54年1月	RC	2	568	旧基準					19	0.59	0.61								20	0.83	0.86
	特別教室棟	5		昭和58年3月	W	1	446		耐震診断の必要なし																

<用語の解説>

- 「構造」欄に「RC」とあるのは鉄筋コンクリート造を、「S」とあるのは鉄骨造を、「W」とあるのは木造をいいます。
- 「区分」欄に「旧基準」とあるのは新耐震基準施行(昭和56年)以前に建築されたものを、「新基準」とあるのは新耐震基準施行後に建築されたものをいいます。
- (1)「新基準」との表示のあるものは、耐震性がありますので、「区分」欄から右の各欄は、すべて「-」となっています。
 (2)「旧基準」との表示のあるもののうち、改修済みのものについては、「改修済」と記載した上で、「改修年度」及び「改修後の」Is値及び「CT・SD値」(後述)をそれぞれの欄に掲げてあります。
 (3)「旧基準」との表示のあるもののうち、未改修のものについては、「優先度調査」、「第1次診断」、「第2次診断」又は「第3次診断」のいずれかが実施されていますので、これらのいずれかが該当する欄にそのデータ掲げてあります。
- (1)「優先度調査」は、正確には「耐震化優先度調査」といい、学校の設置者が、どの学校施設から耐震診断を実施すべきか、その優先度を検討することを主な目的として実施するもので、優先度の高いものから順に、1から5までのランク付けをすることとなっています。「優先度調査」を実施した年度を「年度」欄に、優先度ランクを「ランク」欄に掲げてあります。
 (2)「第1次診断」は、個別の建物の耐震性能を簡略に評価する診断方法です。
 「第1次診断」を実施した「年度」及び「Is値」(後述)を、それぞれの欄に掲げてあります。
 (3)「第2次診断」・「第3次診断」は、個別の建物の耐震性能を詳細に評価する診断方法です。
 「第3次診断」は「第2次診断」と比較し、柱・梁の強度を含めて耐震性能を評価することから、その結果の信頼性が上がります。
 それぞれの診断を実施した「年度」並びに「Is値」及び「CT・SD値」(後述)をそれぞれの欄に掲げてあります。
- (1)「Is」(構造耐震指標)は、建築物の耐震性能(地震に対する安全性)を数値化したもので、その値が大きいほど耐震性能が高いことを表します。国土交通省告示等によれば、第1次診断により算出したIs値が0.8以上の場合及び第2次診断等により算出したIs値が0.6以上の場合は耐震性がある建物ということになります。
 (2)CT(累積強度指標)とSD(形状指標)の積が0.3以上の場合は耐震性がある建物ということになります。